

原子力システム研究開発事業－特別推進分野－中間評価 総合所見

研究開発課題名: 蒸気発生器伝熱管破損伝播に係るマルチフィジックス評価システムの開発

研究代表者(研究機関名): 大島宏之(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

再委託先研究責任者(研究機関名): 奈良林直(国立大学法人北海道大学)

再委託先研究責任者(研究機関名): 山口彰(国立大学法人大阪大学)

再委託先研究責任者(研究機関名): 出口祥啓(国立大学法人徳島大学)

研究開発期間 平成22年度～平成25年度(4年計画)

項目	要約				
1. 研究開発の概要	<p>既存の高速炉の安全評価に資するため、現象解明等に適用可能なマルチフィジックス評価システムの構築に必要な以下の研究開発を実施する。</p> <p>①機構論に基づくNa-水反応現象解析評価手法の開発②長時間事象進展解析評価手法の開発</p> <p>③Na-水反応による伝熱管破損現象解明のための実験とデータベースの整備</p>				
2. 総合評価	<table border="1" data-bbox="320 974 411 1402"> <tr> <td data-bbox="320 974 411 1055">A</td> <td data-bbox="411 974 1369 1211"> <p>・全般的に適切なマネジメントの下、安全審査に向けた評価体系の構築が着実に進められており、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。今後はまとめの段階に入るので、評価体系の根拠としての解析ツールと実験データを有機的に結びつけるように、メンバー間で協力・議論を尽くして整理を進めてもらいたい。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="320 1211 411 1402"></td> <td data-bbox="411 1211 1369 1402"> <p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p> </td> </tr> </table>	A	<p>・全般的に適切なマネジメントの下、安全審査に向けた評価体系の構築が着実に進められており、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。今後はまとめの段階に入るので、評価体系の根拠としての解析ツールと実験データを有機的に結びつけるように、メンバー間で協力・議論を尽くして整理を進めてもらいたい。</p>		<p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>
A	<p>・全般的に適切なマネジメントの下、安全審査に向けた評価体系の構築が着実に進められており、期待通りの成果が見込めることから研究は継続すべきである。今後はまとめの段階に入るので、評価体系の根拠としての解析ツールと実験データを有機的に結びつけるように、メンバー間で協力・議論を尽くして整理を進めてもらいたい。</p>				
	<p>A. 期待以上もしくは期待通りの成果が見込め、継続すべきである。</p> <p>B. ほぼ期待通りの成果が見込め継続すべきであるが、計画の一部見直しが必要である。</p> <p>C. 進捗に大きな遅れがあるなど、成果がほとんど見込めない。</p>				